

NTT都市開発グループ CSR報告書2019

ダイジェスト版



NTT都市開発

Blue Crystal

誠実と革新の結晶

信頼を象徴するブルーは、お客様への誠実な姿勢の証です。
透明感あふれる多面体のフォルムは、未来を見据えた革新的なまちづくりと、
人々の輝く笑顔を表現しています。

UD Statement

企業理念

誠実に、革新的に

街を、心を、つないでいく

私たちは、

不動産サービスの提供を通じて、未来が見えるまちづくりに貢献するとともに、
お客様や地域社会の人々が満足し、笑顔になっていただくことに最大の価値を見出します

そのために、

社会やお客様ニーズの変化を捉える感性を磨くとともに、

お客様志向を徹底し、

新たなサービスの創出に向け、

全社員が誠実に失敗を恐れず、チャレンジし続けることを約束致します

チャレンジの源泉は、

社員相互が尊重しあい、自由・活発な意見を述べる事が出来る社風にあると認識し、

全社員が笑顔で仕事に取り組みます

編集方針

「NTT都市開発グループ CSR基本方針」が示す5つのCSRテーマに沿った構成とし、当社グループの企業理念や事業特性を反映した報告としています。そして、当社グループの取り組みで、重要な社会的な課題・要請に対応しているものを重点的にご報告しています。報告内容を決めるにあたっては、GRIスタンダード[※]が示す基本プロセスを参考に、社会的要請が強く、当社グループの戦略上の重要性も高いトピックを重点的に取り上げました。本ダイジェスト版は、多くの方々にお読みいただけるよう、CSR情報のエッセンスを簡潔にまとめ、読みやすさを重視して編集しました。

※オランダに本部を置くNGOのGRI (Global Reporting Initiative) が発行する、CSR報告書の国際規格です。

当社グループのCSR報告ツール



「CSR情報」ウェブサイト
ニュース、過去データ、関連ページも含む
総合的なCSR情報を掲載しています



冊子詳細版
2018年度のCSR情報を網羅的に掲載して
います



ダイジェスト版(本冊子)
2018年度のCSR情報のエッセンスを掲載
しています

報告対象組織

NTT都市開発グループ全体の取り組みを、できるかぎりご報告しています。また、以下のルールに従い、各報告部分における対象組織を明確にしています。

- ・「NTT都市開発グループ」「当社グループ」→ NTT都市開発グループ全体
- ・「NTT都市開発」「当社」→ NTT都市開発(株)単独
- ・「(グループ会社の名称)」→ グループ会社単独

報告対象期間

2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)

※一部、報告対象期間前後の取り組みに関する記載も含まれています。

発行月

2019年12月(次回発行予定:2020年9月)

お問合わせ先

〒101-0021 東京都千代田区外神田4-14-1 秋葉原UDX

NTT都市開発株式会社 総務部 CSR推進室

TEL:03-6811-6300(代) FAX:03-5294-8500

その他

(撮影)

*フォワードストローク

※完成予想図は、計画段階のものであり、施工上の理由により変更となる場合があります。

CONTENTS

01 企業理念

03 トップメッセージ

05 CSRの推進

NTT都市開発グループのCSR

街づくりのバリューとSDGs達成への貢献

07 特集1 人・街・時をつなぐ新たなビジネスセンター「大手町プレイス」

09 特集2 調布の森に、「人・地域・時間をつなぐ」新たなコミュニティを ～「つなぐTOWNプロジェクト」第5弾～

11 特集3 NTTグループの不動産利活用に向けた取り組み ～ NTT電話局 営業窓口跡の利活用(LIFORK上北沢・LIFORK川崎)～

13 5つのCSRテーマへの取り組み

ステークホルダーとのコミュニケーション

- ・地域の景観と建物の風格を守り未来へつなぐプロジェクトとして、
小学校跡地をホテルに改修
- ・名古屋 再開発地区における賑わいづくり
- ・SHARE GREEN MINAMI AOYAMA

15 快適な空間と賑わいの創出

- ・アーバンネット内幸町ビル
- ・英国ロンドン市における歴史的景観を守りながらのバリューアップ
- ・住まう方が緩やかにつながる都心住宅の共用空間(ウエリス新宿早稲田の森)

17 自然環境保全・配慮の推進

- ・グリーンインフラとしての広大な緑地(品川シーズンテラス)
- ・人と自然と地域をつなぐ街づくり
(ウエリス仙川調布の森・ウエリスオリーブ成城学園前)

18 多様性を尊重した職場づくり

- ・働き方改革、ワーク・ライフ・マネジメント支援の取り組み
- ・各種認定(くるみん認定、PRIDE指標ゴールド、健康経営優良法人2019
(ホワイト500))の取得
- ・社内コミュニケーション

20 健全な事業活動

地域の皆様の街への想いに真摯に向き合い
地域の皆様から信頼される
「街づくりのパートナー」をめざします



NTTグループがめざす街づくり

2030年の期限まで残すところあと10年、国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け、「街づくり」の果たす役割は大きいと考えています。

都市部への人口集中は世界中で進行しており、都市部に住む人口の割合は、先進国では2010年時点で70%を超え、2050年に90%になるとも言われています。開発途上国でも急激に都市人口は増加しており、今後どのように「街づくり」を進めるのかは、人権問題から気候変動などの環境問題まで、多くの社会的課題に影響を及ぼす大きな要素の一つと言えます。一方、日本の都市は、超少子高齢社会の到来、多発化、甚大化する自然災害に対してどのように備えていくのかなど、固有の課題にも直面しています。

このようなさまざまな課題を踏まえ、NTTグループは中期経営戦略「Your Value Partner 2025」の中で「不動産利活用(街づくりの推進)」を柱の一つとし、2019年7月、NTT都市開発グループとNTTファシリティーズグループを両輪とする街づくり事業推進会社「NTTアーバンソリューションズ株式会社」を設立しました。NTTアーバンソリューションズグループを中心に、従来の不動産開発にとどまらないNTTグループならではの新たな街づくりで、社会的課題の解決への貢献をめざします。

この新体制のもと、NTT都市開発グループは不動産デベロッパーとして培った機能・ノウハウを、NTTファシリティーズグループは建築・エネルギーなどの技術を活用することで、街づくり推進の中核的・基盤的な役割を担います。そこに、NTTグループが日本全国に保有する不動産の活用をはじめ、グループ各社の最先端のICT技術やエネルギー・マネジメント技術、製品・ソリューション、高速・高品質なネットワークなど、NTTグループの総力を活用するとともに、多彩なビジネスパートナーとのコラボレーションを積極的に進めることで、NTTグループだからこそできる「街づくり」を実現したいと考えています。

私たちNTT都市開発グループは、新体制においても「誠実に、革新的に」という企業理念のもと、街づくりのオーナーである地域の皆さまの街に対する想いに真摯に向き合い、全国で個性豊かな地域社会が輝く街づくりに取り組みます。

街づくりを通じて社会的課題の解決に取り組む

NTTアーバンソリューションズ及びNTT都市開発グループは、地域社会の経済発展と社会的課題の解決を両立し、快適で活力に満ちた質の高い生活を実現するため、各都市がめざす街づくりを以下の4つのバリューで支援しています。

NTT都市開発グループが考える「街づくりのバリュー」

■コミュニティ

個性と活気ある街づくりのための魅力ある空間とコンテンツを提供

■ダイバーシティ

街に集い、働き、住まう人それぞれの、多様なライフスタイルに寄り添う都市環境を整備

■イノベーション

先端技術を活用して、都市の課題解決や新たな産業創出、企業の生産性向上等に貢献

■レジリエンス

環境負荷低減を実現し、災害対応力を備えた、安心して暮らせる街を創造

「街づくりのバリュー」は、地域社会の課題に対して自分たちがどのように貢献できるかを、社員一人ひとりが考えるための指針でもあります。SDGs目標11の「住み続けられるまちづくりを」に象徴されるとおり、建物の建設・運用における再生可能エネルギーの利用やエネルギー消費量の削減、健康の促進、防災や減災への備え、産業基盤の提供や雇用の創出など、「街づくり」が未来の社会に与える影響の大きさを全社員が胸に刻み、国内外の社会的課題の解決に貢献してまいります。

多様性を尊重し、高い倫理観を備える組織づくり

ダイバーシティは、街づくりだけでなく、自社内の組織づくりにおいても重要な視点です。NTT都市開発グループでは、ダイバーシティ&インクルージョンを経営戦略の中核に据え、多様性を尊重した職場づくりに注力しています。すべての社員が、性別、年齢、人種、国籍、障がいの有無、性的指向、性自認などに関係なく活躍できる環境の整備は、当社グループの今後の発展に不可欠です。そのため、社員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスの実現、柔軟な働き方の促進、そして育児、介護などのライフイベントへの対応支援に向けて、制度整備と意識啓発に取り組んでいます。

また、すべての社員が高い倫理観と人権意識を持って行動し続けることは、当社グループの事業活動の礎です。そのためには、社員一人ひとりが社会的責任を認識し、事業活動が社会に直接・間接に及ぼす影響をより広い視野で捉えることが重要であると考え、人権尊重・コンプライアンスの徹底・ガバナンスの強化に向け、社員教育の充実も進めています。

これからも、NTTグループの一員としての誇りと自覚を持ち、企業理念に掲げるとおり“誠実に、革新的に”街づくりを進めてまいります。

長期的な視点での街づくり

街づくり事業は、建物や街区の開発がゴールではなく、その後も継続的に街の課題の解決に取り組み、街を発展させていくことが重要です。

社員一人ひとりが、長期的な視点を持ち、地域の皆様と誠実に向き合い、そのニーズに丁寧にお応えし続けることで、賑わいと活気にあふれ、すべての人々が安心して暮らし、働き、集うことができる街の実現に貢献し、地域の皆様から選ばれ信頼されるパートナーとなることをめざします。

皆様には、私たちの取り組みへのご関心やご期待に感謝を申し上げますとともに、引き続きのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

NTT都市開発株式会社
代表取締役社長

中川 裕

CSRの推進

NTT都市開発グループのCSR

NTTグループは、新たな中期経営戦略「Your Value Partner 2025」の一環として、NTTグループの人、技術、資産を活用した新たな「街づくり」を推進するため、NTT都市開発グループとNTTファシリティーズグループを両輪とした新会社「NTTアーバンソリューションズ(株)」を創設しました。

当社グループは、この新体制のなか、NTTグループ唯一の総合不動産デベロッパーとして街づくりの中核となる開発機能を担い、NTTファシリティーズグループの持つ建築・エネルギーに関するリソースはもとより、NTTグループ各社が持つ不動産・ICT・エンジニアリングなどのリソースを最大限に活用し、地域の皆様の街づくりのパートナーとして、個性豊かで活力ある街づくりに取り組んでいます。

街づくりを通じた社会的課題解決への貢献に向け、当社グループは、企業理念・行動指針に則り、CSR(企業の社会的責任)に関する基本的な考え方や方向性を基本方針としてまとめ、社外に向けて公表しています。

NTTグループの一員として良質な不動産サービスを提供し、お客様や地域社会の皆様に満足と笑顔をもたらす街づくりを推進すること、そして、より暮らしやすい持続可能な社会の実現に貢献していくことが、その中核となるメッセージです。

街づくりにおいては、その場所を特別なものとしている歴史や文化を学び、活かすことを大切にしています。

NTT都市開発グループ CSR基本方針(2014年9月改定)

CSRメッセージ

私たちは、NTTグループの一員として良質な不動産サービスの提供を通じて、お客様や地域社会の人々が満足し、笑顔になっていただける街づくりを推進し、より暮らしやすい持続可能な社会の実現に貢献します。

CSRテーマ

ステークホルダーとのコミュニケーション

お客様や地域社会の皆様をはじめ、街づくりに関わる全ての企業や人々が、私たちの大切なパートナーです。私たちは、パートナーとの真摯なコミュニケーションを通じて、よりよい街づくりを推進します。

快適な空間と賑わいの創出

私たちは、誰もが安心して安全に過ごせる心地のよい居住空間、機能的で便利なビジネス空間を創造し、魅力的で賑わいにあふれる街づくりを推進します。

自然環境保全・配慮の推進

私たちは、街づくりに伴う環境負荷軽減はもとより、人々が身近に自然を感じることでできる快適な空間の創造、工夫を凝らした街づくりを推進します。

多様性を尊重した職場づくり

私たちは、全社員一人ひとりの個の成長と多様性の尊重に努め、生き生きとした職場づくりを推進します。

健全な事業活動

私たちは、常に感謝の気持ちを忘れず、高い倫理観と人権意識を持って、より責任ある事業活動を行い、豊かな社会づくりに貢献します。

※NTT都市開発グループ CSR基本方針は、「事業活動を通じた社会的課題の解決に取り組み持続可能な社会を実現」をめざすNTTグループCSR憲章を踏まえて作成したものです。

街づくりのバリューとSDGs達成への貢献

街づくりのバリュー

NTT都市開発グループは、「街づくりのバリュー」としてコミュニティ、ダイバーシティ、イノベーション、レジリエンスを掲げ、各都市がめざす個性豊かで活力ある街づくりの支援に取り組んでいます。

「街づくりのバリュー」では、都市の本来的な役割、日本の各都市が描く将来像、そしてNTTグループが有するリソース(中核都市に保有する不動産、ICT技術、街づくりの関連技術・ノウハウ)を考慮し、当社グループが地域のパートナーとして提供できるバリューを示しています。

NTT都市開発が考える街づくりのバリュー

コミュニティ 一個性と魅力にあふれ人が集まる街ー

個性と活力ある街づくりのための魅力ある空間とコンテンツを提供

ダイバーシティ 一誰もがいきいきと過ごせる街ー

街に集い、働き、住まう人それぞれの、多様なライフスタイルに寄り添う都市環境を整備

イノベーション 一新たな産業創出による活力ある街ー

先端技術を活用して、都市の課題解決や新たな産業創出、企業の生産性向上等に貢献

レジリエンス 一災害に強く地球環境にやさしい街ー

環境負荷低減を実現し、災害対応力を備えた、安心して暮らせる街を創造

SDGs達成への貢献

2015年9月、ニューヨーク国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。同アジェンダは、2030年に向けた人間、地球および繁栄のための行動計画として、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」を掲げました。

NTT都市開発グループは、国際社会の責任ある一員として、SDGsの達成に貢献します。

街づくりのバリューとSDGs

NTT都市開発グループでは、「コミュニティ」「ダイバーシティ」「イノベーション」「レジリエンス」、以上4つの「街づくりのバリュー」で街づくりを支援することで、SDGsの達成をめざしています。4つのバリューは、目標11「住み続けられるまちづくり」をはじめ、17の目標すべてに関連します。各都市が持つポテンシャルを最大限に発揮させる街づくりは、世界共通の行動計画を推進する力になることができると、私たちは考えています。

街づくりのバリューとSDGsとの関連



人・街・時をつなぐ新たなビジネスセンター 「大手町プレイス」

公共性の高い街としてユニークな歴史を持つ大手町二丁目地区。ここに「人・街・時をつなぐ」をコンセプトとして2018年9月にオープンしたのが、大手町最大規模の新たなビジネスセンター「大手町プレイス」(東京都千代田区)です。その実現において中心的な役割を担った2人の担当者が、この場所の意味、開発の構想と具体的な取り組み、そして今後の課題・展望を語ります。

大手町二丁目にビルを建てることの意味

東田中/歴史的に見て非常に公共性の高いエリアであり、財務省、通信省の流れを汲む日本郵政グループ・NTTグループといった地権者が名を連ねます。この地に建てるビルは、「大手町という場所にふさわしい、そして日本のこれからにつながるものであるべき」という思いが、私たちのなかに強くありました。

“つなぐ”ことで生まれる パブリックな空間

東田中/この場所の記憶を考慮して、「公益性のあるパブリックな空間をつくろう」という思いが私たちの出発点であり、一貫した指針になりました。そのなかから生まれたのが「人・街・時をつなぐ」というコンセプトです。共通の要素である“つなぐ”は、歴史的な地権者が扱うもの、つまり日本郵政の「手紙」やNTTの「電話」に因むものです。

吉川/「人をつなぐ」は、このビルを訪れた人同士がつながり、そこから新たな活気が生み出されること



大手町プレイス 外観

を願い、設計に取り組みました。オフィスロビーを3階に置き、1・2階をセントラルプロムナードとして開放したことが最大の特徴です。低層部には来街者が自由に利用できるさまざまなタッチダウンスペースや緑豊かなサンクンガーデンを設けました。特に、オープンエアのサンクンガーデンは、大手町プレイスのオフィスワーカーだけでなく、近隣のビルに勤める多くのオフィスワーカーの憩いの場となっています。

東田中/「街をつなぐ」取り組みとしては、大手町と隣接する神田・日本橋との行き来を促す歩行者専用橋「亀閑(りゅうかん)さくら橋」を日本橋川に架け、エリア外からも訪れやすくする導線をつくりました。大手町プレイスというビルを結節点として新たな歩行者ネットワークを生み出し、回遊性を高めながら周辺を含む地域の活性化にもつなげていきたいと思っています。

東田中/そして「時をつなぐ」ですが、これは歴史を継承するという意味合いで、いろいろな形で表現しています。

吉川/セントラルプロムナードやエレベータホールには通信建築に見られた“手仕事感”を感じさせるため、和紙や漆塗りといった意匠の要素を取り入れています。パネルの目地なども非常に高い精度で美しく揃えており、ここにも通信建築ならではのきめの細かい造りが継承されています。



サンクンガーデン



セントラルプロムナード

訪れるさまざまな方々が利用しやすい空間に

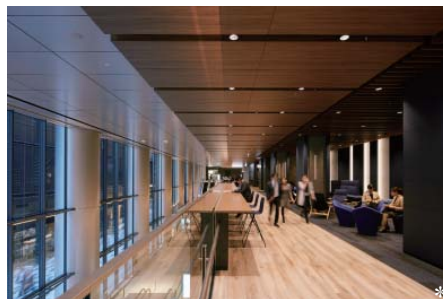
東田中/大手町プレイスの設計では、ユニバースデザインも重視しました。NTTグループの特例子会社であるNTTクラリティ(株)の協力も得て、障がいのある訪問者の方々の目線でさまざまな配慮をすることに努めました。セントラルプロムナードの中央エリアのトイレには多目的シートを設置し、地下1階には授乳室を整備。また、タッチダウンスペースには、休憩、テレワーク、打ち合わせといった異なる目的で使われることも想定し、ソファ、チェア、スツールチェアなど多彩な椅子を配置しています。

吉川/トイレには、聴覚障がいのある方のご利用を想定し、災害など緊急時に音声案内に加えてフラッシュライトで危険をお知らせするような仕組みなども導入しています。

より快適で安心なビルとするために

東田中/NTTグループの一員として、ICT(情報通信技術)の活用にもこだわりました。大手町プレイスの低層階に設けた無料のワークスペースにはセンサーを設置し、テナントのオフィスワーカーが利用したいと思った時には、スマートフォンやPCで混雑状況を確認できるようにしました。よく利用されており、自社のオフィスを出てビル共用部のワークスペースで仕事をしようとする人の多さに、時代の流れを感じています。

吉川/また、全フロアのトイレの使用状況を手元の端末で見ることができるシステムも導入しました。これがビルの新たな価値にもなります。こうしたやり方は、今後スタンダードになっていくと思います。



タッチダウンスペース

将来の大手町の姿を思い描く

東田中/3つの「つなぐ」というコンセプトを高いレベルで具現化できたのは、地権者やパートナーである事業者にも恵まれた点も大きいと思っています。このコンセプトはこれからも変わることはありませんし、大手町プレイスを核とした街づくりはこれからも続きます。この成功を一つの糧に、NTTグループとして街づくりを通じた地域や社会貢献を強く意識しながら、大手町プレイスそして大手町がより魅力的なものとなるよう尽力していきたいですね。

アートによって新しい価値をもたらす

NTT都市開発は、大手町プレイスの地下2階に、東京藝術大学とのコラボレーションによるアート体感スペース「ART Lab powered by GEIDAI COI」を設置しました。ここでは、東京藝術大学とのコラボにより「アート×ICT」を体験できるスペースを期間限定で設け、オフィスワーカーをはじめとした来訪者の方々の創造力や構想力を刺激し、「知性と感性」を養う機会を提供しています。



ART Lab powered by GEIDAI COI



左: NTT都市開発 都市建築デザイン部
建築・エンジニアリング担当 主査

吉川 圭司

右: NTT都市開発 開発本部
開発推進部 担当部長

東田中 成佳

調布の森に、「人・地域・時間をつなぐ」新たなコミュニティを ～「つなぐTOWNプロジェクト」第5弾～

東京都調布市にあるNTTグループの広大な研修施設。そのグラウンド跡地に、「つなぐTOWNプロジェクト」の第5弾として、高齢者向け住宅「ウエリスオリーブ成城学園前」と分譲マンション「ウエリス仙川調布の森」が2019年4月にオープンしました。この構想に中心的な役割を担った2人のキーパーソンが、このプロジェクトにかけた思い、具体的な取り組み、そして今後の展望を語ります。

住まいの新しいしくみをもたらす

大学/私たちNTT都市開発グループは、子どもからお年寄りまで、幅広い世代の方々が将来にわたって「長く、共に、心地よく」暮らしていただける住まいづくりとして、『つなぐTOWNプロジェクト』に取り組んでいます。

キーワードの「つなぐ」には、「家族をつなぐ」「居住者同士・地域をつなぐ」「時間をつなぐ」という3つの意味を込めています。

これを、サービス付き高齢者向け住宅と、分譲住宅を組み合わせ、かつ交流施設とソフトサービスを設けることによって実現させました。

安心して長く暮らせる住まいづくり

大学/「ウエリスオリーブ成城学園前」には、自立した生活が可能な方がプライバシーや安心を両立させて、自由に過ごせる「スイートルーム」と、24時間365日の施設内介護サービスが受けられる「ケアレジデンス」の2種類があります。自立型の住まいと介護型の住まいを併設することで、「スイートルーム」のご入居者が介護を必要とするようになった場合は、「ケアレジデンス」に移り住みも可能にしています。

渡部/今は元気でも、いずれ訪れる老いと、介護が必要になった場合の生活に漠然と不安を感じている方々は少なからずいらっしゃる、「ウエリス(分譲マンション)」ご購入者の方々



からも、将来移り住みも可能な「ウエリスオリーブ(サービス付き高齢者向け住宅)」や、ヘルパーやケアマネジャーといった介護スタッフが常駐する介護事業所が併設されていることは大きな安心感につながる、との声を多くいただいています。

いきいきと暮らしていただくための環境づくり

大学/「ウエリスオリーブ成城学園前」には、「つなぐカフェオリーブ」というレストランを兼ねた交流施設があります。

そこに併設されている「まちライブラリー」は、「本」を通じた人と人の出会いの場であり、ご入居者や地域の方々が持ち寄った本で創る手づくりの図書館です。持ち寄った本には、寄贈者からのメッセージカードが入っており、その本を読んだ方々がそこに感想を書いていくことで、「人」や「地域」とのつながりが自然に生まれていきます。「つなぐカフェオリーブ」は、分

譲マンションを販売するショールームの段階からオープンさせることで、早期のコミュニティ形成を図ることに寄与し、これがグッドデザイン賞をいただけた一つの理由にもなりました。
渡部/大切な「食」を楽しみ、新たな活力の源としてもらいたい——そんな思いで現地調理にこだわりました。季節の催事に合わせたイベント食や身体の状態に応じたきざみ食なども提供し、誰もが食事を楽しめる場所となるよう取り組んでいます。

大学/もう一つこだわったのは「ランドスケープ」です。中庭には、多世代の人々が集う「みんなの広場」、屋上には晴れた日に富士山が一望できる「屋上広場」を設けました。また、敷地内には武蔵野の原風景が残る森の散策路「みんなの森」があります。こうしたランドスケープを通じて、季節を感じられるいきいきとした暮らしを送っていただきたい、というのが私たちの願いです。

より豊かな人生を過ごしていただける場所として

大学/今後は「サービス付き高齢者向け住宅と分譲マンションの融合」というコミュニティをさらに進化させていきたい。同じ敷地内に配達サービス可能なスーパーなどを組み込んだり、学生寮などを誘致し、若い世代の方々も含めた交流機会をつくったりして、活力を生み出す街づくりができればいいですね。

渡部/地域清掃、学童の登下校サポートなど、シニア世代の方々が行き交う活動、あるいは担える役割は数多くあります。私たちとしては、シニア世代の方々ボランティア活動を通じて新しい生きがいを手に入れるため一歩を踏み出すお手伝いができれば嬉しいですね。



つなぐカフェオリーブ



みんなの森

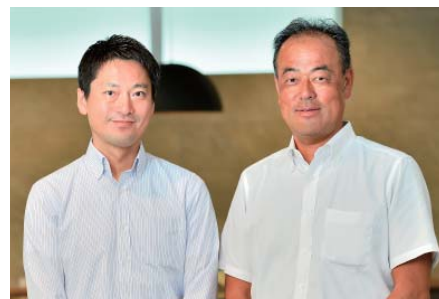
大学/多くの高齢者の方々は、心を許せる仲間の存在が生きる原動力を生み、結果として心地よいコミュニティが生まれることで、健康寿命の延伸へとつながるのではないかと感じています。私たちは、「ウエリスオリーブ 成城学園前」を、そのような機会が生まれる場所にもしていきたいと考えています。



つなぐカフェオリーブでの交流会

グッドデザイン賞(2019年度)審査委員の評価コメント

「分譲住宅とサ高住の一体開発による多世代近居は最近の大きな流れであるが、その際に重要になるのはレストランカフェの存在で、事業としても周辺地域との交流の面においても核になってくる。レストランカフェと中庭を一体のデザインとすることで、セキュリティラインの内外をうまく連続させている点が評価できる。地域交流のプログラムとして重要なまちライブラリー機能を販売ショールームの段階から、会員を募りながら実践したことで、コミュニティ醸成にも企画段階から力を入れていることがよくわかる。オフィス、中高一貫校、保育園という周辺の街と一体で、多世代の暮らしの場となるということも説得力があり、今後の街としての熟成に期待できる。」



左: NTT都市開発ビルサービス(株) 住宅サービス事業本部
シニア事業担当 統括マネージャー

渡部 厚

右: NTT都市開発 住宅事業本部
事業推進部 開発担当部長

大学 淳示

NTTグループの不動産利活用に向けた取り組み

～ NTT電話局 営業窓口跡の利活用 (LIFORK上北沢・LIFORK川崎) ～

2019年7月、NTTグループは、NTT都市開発グループとNTTファシリティーズグループを両輪とする街づくり事業推進会社「NTTアーバンソリューションズ株式会社」を設立しました。NTTグループ各社は、これまでも不動産利活用に取り組んできましたが、新体制の発足に伴い、NTTアーバンソリューションズを中心にグループ内の連携を強化し、NTTグループだからこそできる、ICT・エネルギー・環境技術を活用した街づくりで、社会的課題の解決に貢献することをめざしています。

今回ご紹介する「LIFORK上北沢」(東京都世田谷区)「LIFORK川崎」(神奈川県川崎市)は、NTT電話局営業窓口跡を利活用した事例です。

NTT都市開発が展開するシェアオフィス「LIFORK」は、さまざまな街や空間を「より良い人生のために働く」場所に変えることを目的に、これまで都心を中心に展開してきましたが、2019年、はじめて郊外への展開に至りました。電話局窓口跡の再生という課題に取り組んできた2人が、これまでの取り組みと、今後に向けた想いをお伝えします。



LIFORK上北沢



LIFORK川崎

NTT都市開発が担う新たなミッション

清家/NTTグループは、電話局やオフィスビルといった拠点を全国に約8,500カ所保有していますが、技術開発に伴う電気通信設備の小型化、営業窓口の廃止などにより、空きスペースが生じます。このスペースにはいろいろな制約があり、最大限の有効利用を進めるには、NTTグループ唯一の総合不動産会社として実績を積み上げてきたNTT都市開発のノウハウがポイントになります。

渡辺/情報通信を中核事業とするNTTグループにとって、不動産事業は主に対する従、事業区分で言うと「その他」という扱いが長く続いてきました。しかし、視点を変えると、不動産事業が扱う街づくりは、NTTグループにとってサービスを展開する土台を整えることにほかなりません。つまり、NTTの不動産を有効に活用しながら、地域の皆様と協同して街づくりを総合的に手がけることで、NTTグループが提供する価値を最大化できると考えています。NTTアーバンソリューションズ(株)とNTT都市開発は、NTTグループのこうした新たな構想を担っています。

清家/不動産開発における街づくりという概念自体も、変革が迫られています。かつては、そこを利用していただけるテナントを見つける、ということに焦点が置かれていましたが、これからは「その街で働いたり住んだりする人の役に立つためにどうすべきか」という視点をより強く持つ必要があると考えています。私たちの強みを活かしながら地域の皆様のお役に立つ方法としては、多くの方々が利用できるパブリックな場を生み出す、安心安全な場所にする、エネルギー効率を高めるなどして環境負荷を下げる、といった取り組みがあげられます。渡辺/地域のお役に立つためには、何より地元の方々とよく話をすることが大切だと考えています。地域の心配事や悩みは何か、何が足りないのか、どのような街にしたいか。時間はかかりますが、さまざまな立場の方々と一緒に構想を練るプロセスを持つことが、いい街づくりにつながると考えています。

地域の皆様が訪れる『街の電話局』に、新たな命を吹き込む

清家/NTT都市開発では、自分らしいワークスタイル&ライフスタイルの実現をサポートする新たなシェアオフィス事業として、2018年4月より「LIFORK(リフォーク)」を展開しています。「LIFORK」は、LIFE + WORK = LIFORKという造語です。100人いれば100通りの働き方、生き方がある現代で、それぞれの「はたらくって楽しい」が見つけられるように、というメッセージを込めています。

「LIFORK上北沢」を開設したNTT上北沢ビル、「LIFORK川崎」を開設したNTT川崎ビルは、かつて東日本電信電話(株)の電話回線を契約したり、電話料金を支払ったりする営業窓口として多くの人が訪れていました。そんな地域の皆様に親しまれてきた場所をかつての『街の電話局』のように地域の方々が集う場として復元できないかと考えたことが、「LIFORK上北沢」「LIFORK川崎」プロジェクトの出発点になりました。

渡辺/「LIFORK上北沢」「LIFORK川崎」は、ともに住宅街が近くにあり、都心に通勤している方が多いという特徴もあります。そうした場所にシェアオフィスを設けることで、テレワークやサテライトオフィスなど、地域の皆様に新しい働き方を提案することができるのではないかと考えました。

NTTアーバンソリューションズグループとしての取り組み

渡辺/NTTアーバンソリューションズグループ体制がスタートしたことで、NTTグループ間の連携を強化、NTTグループ不動産を活用した、より広域なエリアの活性化に貢献するプ

ロジェクトにも取り組んでいます。その一例が、仙台市青葉区のNTT東日本仙台中央ビルの再開発です。このプロジェクトでは、2023年度に完成予定の次世代型放射光施設との連携を見据えた開発を進め、仙台市のビジョン実現への貢献をめざしています。このように、NTTグループが全国の中核都市を中心に所有する資産を、地域の発展を見据えて活用していくことは、私たちの重要なミッションです。

魅力的な場所づくり、そして豊かな街づくりへ

清家/「LIFORK上北沢」「LIFORK川崎」の開発にあたっては、規模は小さいものの「街の可能性を紡ぎだす共創拠点」とすることをめざしてきました。人と地域、人と企業が、しなやかな関係性を結び、仕事や暮らしの新しい可能性を紡いでいける場所、地域を面白くする場所になればと考えてきましたが、この想いは、プロジェクトの規模の大小に関わらず、今後のNTTグループの不動産利活用を考えていく上で共通するものだと思います。

渡辺/「LIFORK上北沢」「LIFORK川崎」の開発では、地域の人々に「ここに来ればきっと何か魅力的なものと出会える」という期待を抱いていただけるよう取り組んできました。今後の開発にあたっては、地域の声やアイデアを積極的に採り入れ、それをNTTグループのさまざまなリソースと融合させて、NTTグループの総合力を活かした新しい魅力を創出していきたいと考えています。また、地域の方々がよりいきいきと働き、集い、交流できるような場づくりにも、取り組んでいきたいと思っています。



LIFORK上北沢エントランス



LIFORK川崎エントランス



左: NTT都市開発 開発本部
企画部 担当課長

清家 伸幸

右: NTTアーバンソリューションズ(株) CRE推進部
グループ営業部門 総合推進担当課長

渡辺 英孝

5つのCSRテーマへの取り組み

5つのCSRテーマを常に念頭に置きながら、訪れる皆様の笑顔に満ちた街づくりに国内外で取り組んでいます。

ステークホルダーとのコミュニケーション

NTT都市開発グループは、より優れた不動産サービスを提供していくためには、一つひとつの建物や、その集積である街の将来に関心を持つさまざまな立場の方々との対話や共創が欠かせないと考えています。

企画・開発段階では、お客様や地域社会、さらには社会全体の幅広いニーズや要請を知ることと力を注ぐとともに、その内容を計画へいかに反映させるかを慎重に検討しています。それぞれのプロジェクトにおいて、計画の一貫性を保ちながら、街を訪れる多様なの方々にとってできるかぎり心地よい場所にするための工夫を重ねています。設計段階での意見交換を通して、障がいのある方の視点を導入することにも取り組んでいます。また、開発する土地がどのような場所なのか、歴史や人々の記憶、将来の可能性なども含めて広い視野から把握・分析し、そのエッセンスを設計に活かすことも重視しています。

開発物件を運営する段階でも、お客様の声に耳を傾け、CS(お客様満足)の向上に努めています。賃貸物件では、個別課題の共有、優良事例の水平展開、組織横断的な課題解決などを行う社内委員会を定期開催するとともに、運営管理に携わるスタッフが日々のサービス向上に取り組む場もビル単位で設けています。また、地域の協議会などへの参加や、エリアマネジメント活動^{*1}を通じて、地域に役立つ存在になれるよう努めています。一方、分譲住宅についても、お客様の声を集約するセクションを設け、きめ細やかな対応に努めています。

※1 地域の環境や価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者などによる主体的な取り組みのことです。

■ 地域の景観と建物の風格を守り未来へつなぐプロジェクトとして、 小学校跡地をホテルに改修

NTT都市開発は、京都市東山区清水にてホテル開発を進めており、「The Hotel Seiryu Kyoto Kiyomizu (ザ・ホテル青龍 京都清水)」として、2020年3月に開業を予定しています。当ホテルは、長年にわたり地域に愛されてきた清水小学校を、客室数48室、レストラン、プライベートバス、フィットネスジムなどを有するホテルとしてコンバージョン(用途変換)するものです。

ホテル名称は、悠久の歴史を重ね世界でも有数な観光地である「京都清水」と、この土地で古来より東山の護り神として信じられてきた「青龍」の2つの要素をかけ合わせ、地域性と歴史的価値のある小学校の校舎の特徴を活かしたここにしかないホテルを世界へ発信していくべく、命名しました。

この建物の風格や歴史の重みを尊重し、世界中から訪れるお客様を迎え入れるラグジュアリーホテルとして贅沢な滞在時間を演出し、唯一無二のホテルをめざしていきます。



The Hotel Seiryu Kyoto Kiyomizu ガーデン

■ 名古屋 再開発地区における賑わいづくり

再開発地区における賑わいづくりの一例としてあげられるのが、現在取り組んでいる、名古屋市「(仮称)東桜一丁目1番地区建設事業」です。

「(仮称)東桜一丁目1番地区建設事業」では、旧住友商事名古屋ビルの跡地に20階建ての業務・商業・交流拠点ビルを建設します。新たなビルは、NTTグループとしてICTを活用した最新のワークスペースとオフィスサポート機能を実現するとともに、オープンスペースに賑わいを与える商業施設を配置します。隣接する既設のアーバンネット名古屋ビルと一体的な建物とすることで、街に新たな動線を生み出し回遊性を高めます。

このように再開発により既存の地区を活性化させ、人々が交流し、行き交う街へと再生し、地域の可能性をさらに広げていきます。



「(仮称)東桜一丁目1番地区建設事業」イメージ(完成予想図)

■ SHARE GREEN MINAMI AOYAMA

NTT都市開発は、東京都港区南青山一丁目エリアのさらなる賑わい創出と地域に開かれた場を提供することを目的に、既存建物をコンバージョンしたカフェ、ショップ、オフィスからなる「SHARE GREEN MINAMI AOYAMA」を2018年10月にオープンしました。

住まう人、働く人、街を訪れる人などのさまざまな人々が自然と集い、緑をシェアしながらコミュニティをつくりだすことを本施設のコンセプトとしています。

なお、オフィスは当社が手掛けるシェアオフィス事業『LIFORK(リフォーク)』の第三号物件として、緑のなかでの新しい働き方、自分らしいワークスタイル、ライフスタイルの実現をサポートするものです。敷地内の庭の一部には、オフィス施設と同様のWi-Fi環境を整備し、ペットと一緒に働くこともできるなど、地域の魅力を活かした、都会と自然が共存する新しい働き方も提案しています。



SHARE GREEN MINAMI AOYAMA 外観



SHARE GREEN MINAMI AOYAMA 敷地内

快適空間と賑わいの創出

NTT都市開発グループは、高品質で信頼性の高いオフィスビルや複合ビルを、アクセスのよい立地条件のもとで開発・運営してきました。最新技術を柔軟に取り入れながら、利便性・快適性に優れ、業務生産性向上にも寄与する空間を創出するとともに、災害時の安全性も高めた物件を提供しています。ビル管理運営においても、お客様のさまざまなニーズにお応えする体制を構築し、お客様のビジネスを支えています。

また、商業施設の開発・運営にあたっては、"あなたとつくる まちの物語" ～ひとりひとりと、ひとつひとつを～という「商業ビジョン」のもと、魅力的で活気あふれる場所を提供するため、地域やテナントの皆様と連携して取り組んでいます。

分譲マンションを中心とする住宅事業では、「Wellith(ウエリス)」ブランドのもとで、長期にわたり資産価値を保てる良質の住まいづくりと、大切な資産を守り育てるための行き届いたサポートに努めています。「永住性への配慮」「快適な生活空間」「安全安心」「確かな管理」「先進の情報技術」「環境創造」を、『6つの品質』としてお客様に約束。良質な既存建物のリノベーションや、分譲マンション隣接地にサービス付き高齢者向け住宅を同時開発し、連携してサービスを提供する仕組みの提案(つなぐTOWNプロジェクト)のような新しい試みも、着実に実績を重ねています(P9～10参照)。

こうした快適な空間や賑わいの創出は、安全・品質方針に支えられています。企画、設計、建設、管理の各段階で、耐久性、信頼性、機能性に加え、災害対策、防犯・セキュリティ対策、維持保全、ユニバーサルデザインまでを含む品質の維持・向上に取り組んでいます。

アーバンネット内幸町ビル

2019年7月に、新たなビジネスの拠点、また地域の皆様に心地よい時間を過ごしていただく空間として、オフィス・ホテル複合施設であるアーバンネット内幸町ビル(東京都港区)が竣工しました。

オフィスフロアは、フレキシブルなレイアウトが可能な無柱空間で多様なワークスタイルに対応しているほか、自然光あふれる4面採光の実現により、快適で生産性に優れた空間を提供しています。また、オフィスワーカーや地域の皆様のコミュニケーションが弾む場として1階に緑豊かなピロティを設けました。

ビルを利用するお客様、地域の皆様が満足し、笑顔になっていただける快適な空間として、広く社会に役立てていきます。



アーバンネット内幸町ビル ピロティ空間

■ 英国ロンドン市における歴史的景観を守りながらのバリューアップ

NTT都市開発は、2018年9月からロンドン中心部で「20 Finsbury Circus」のリニューアル工事を開始しました。ビルが立地する地区は銀行、保険会社、証券取引所などが集まる利便性の高い場所であるとともに、付近一帯が保存地区に指定されています。特に、通りに面する部分は歴史的保存建築に指定されているため、建物の外観を残すことが義務付けられています。そこで、同物件では100年の以上の歴史を感じさせる外装を残しながら、設備の更改や内部改修を行いました。

このように、海外においても歴史が育んできた風格ある建物を再生し、高品質のオフィス環境を提供しています。

また、2016年11月にリニューアル工事が竣工した1 King William Streetは、建物の歴史を尊重しながら新たな価値を付加したことが評価され、英国の建築界において名高い建築雑誌『AJAA』で、既存改修プロジェクトの最高賞にあたる「Refurb of the Year」を受賞しました。



20 Finsbury Circus

■ 住もう方が緩やかにつながる都心住宅の共用空間（ウエリス新宿早稲田の森）

NTT都市開発は、住もう方が自然とコミュニティを形成できる空間づくりに取り組んでいます。2018年6月に竣工したウエリス新宿早稲田の森（東京都新宿区）では、単なる通過点になりがちな共用部の役割と可能性を捉え直し、共用空間をそこに住もう方のパブリックとプライベートの中間となる「サードプレイス」と位置付けました。各住戸のリビングや書斎の延長として、住もう方が日常のなかで利用されるよう役割を再考し、緩やかにつながるコミュニティが形成されるような可能性を追求し、より豊かな住まいの提供をめざしました。

具体的には、共用部を壁ではなく間仕切り什器で緩やかに仕切り、開放感と居心地の良さを両立させるとともに、共用部のサービスとして、共用書籍、オリジナルコーヒー、無料Wi-Fiなどを提供しています。

緩やかにつながりのある共用空間に幅広い世代の方が集い、同じ空間で時間を共有することで、住もう方同士が自然とコミュニティを形成できる場となっています。



ウエリス新宿早稲田の森 共用空間

自然環境保全・配慮の推進

総合不動産会社には、開発工事の施主として、あるいは運用物件のオーナー・管理者として、事業パートナーと連携しながら、より環境に配慮した、持続可能なまちづくりを推進することが求められています。NTT都市開発グループは、こうした考えに立脚する「環境方針」と「基本行動テーマ」を掲げながら、NTTグループとも連携し、総合不動産会社に求められる環境保全活動へ多角的に取り組んでいます。

オフィスビルや商業施設については、設計段階はもちろん、運用・管理や改修・廃棄の段階においても、省エネ・CO₂排出削減、ヒートアイランド対策、生物多様性保全、廃棄物削減・リサイクル、節水、省資源などの可能性をきめ細かく検討し、実施しています。

特に、国際社会の最重要課題の一つとなっている省エネ・CO₂排出削減には、設計時に建物構造、使用する材料、設備、制御システムなどを総合的に考慮することに加え、運用時にも効率的なエネルギー利用を促進しています。その一環として、IoT技術を活用したエネルギー効率の向上にも着手しました。また、情報提供や定期的なミーティング開催などを通じ、テナントの皆様との連携強化にも努めています。地域冷暖房の活用や、太陽光発電やグリーン電力の購入を含む再生可能エネルギーの活用も、個別の状況を考慮しながら進めています。保有ビルにおけるエネルギー使用量(原単位)を中長期的に年平均1%改善する目標に向け、広い視野で取り組んでいます。

住宅事業においても、より環境性能に優れた分譲・賃貸住宅を開発・運用しています。リノベーションや生物多様性保全も含め、アプローチを広げながら取り組んでいます。

■ グリーンインフラとしての広大な緑地(品川シーズンテラス)

品川シーズンテラスは、既成市街地で分断されている東京湾臨海部の沿岸生態系と武蔵野台地の樹林生態系とを生産的に結びうる場所に立地しています。これらの生態系ネットワークをつなぐ「グリーンインフラ」としての役割を担うため、約3.5haの広大な緑地には、地域性を考慮した樹種(オオシマザクラ、コナラ、クヌギ、シラカシ、ヤマボウシなど)を配置し、こうした樹木構成が野鳥の飛来も促しています。植栽計画をつくる際には、地元の方との協議の場を設け、ご意見をできるかぎり計画に反映しました。また、トンボや水鳥が訪れることのできる湿生花園も設けています。毎年5月頃には、カモの親子が水辺で遊ぶ姿や庭園内を歩く様子が観察されています。

こうした取り組みにより、品川シーズンテラスは公益財団法人都市緑化機構から、社会・環境に貢献する緑化計画として「SEGESつくる緑」に認定されました。また、2017年には安心・安全に誰もが利用できる快適な優れた緑地として、「SEGES都市のオアシス」に認定されました。



庭園内を歩くカモの親子

Ⅰ 人と自然と地域をつなぐ街づくり

(ウエリス仙川調布の森・ウエリスオリーブ成城学園前)

2019年に竣工したウエリス仙川調布の森・ウエリスオリーブ成城学園前(東京都調布市)は、周辺の緑地や雑木林を守りながら、次の世代へ引き継いでいくことを使命としています。

本建物が立地する調布市入間町は、立川市から大田区にかけて連なる国分寺崖線の緑や、野川・入間川により、日常のなかで自然の潤いや四季の風景を感じられる地域です。

開発では、緑豊かな崖線や雑木林を「調布の森」として保全、活用、育成しながら、自然環境と調和した、ゆとりある住環境を備えた街づくりをめざしました。

豊かな調布の森を擁する、立地の特色を活かすために、緑とともに生活しながら、コミュニティが育まれる“つなぐ仕掛け”にこだわっています。

アプローチや中庭には、地域とのつながりを示すシンボルとして、既存樹木を活用。また、居住者同士の交流を誘発する小空間と樹木を融合させた「みんなの広場」など、緑を通じて住民同士が交流できる工夫をこらしています。敷地内には、「みんなの森」と名付けた崖線の雑木林を活かした散策路を配置し、自然と親しめる空間としています。



ウエリス仙川調布の森・ウエリスオリーブ成城学園前 全景

多様性を尊重した職場づくり

NTT都市開発グループは、「ダイバーシティ&インクルージョン」を経営戦略として位置付け、性別や年齢、人種、国籍、障がいの有無、性的指向、性自認を問わず、多様な人材が活躍できる職場づくりに取り組んでいます。

NTT都市開発では、従来からの施策に加え、2014年に設置した「ダイバーシティ推進室」が中心となり、全社員研修のほか、新任管理者、新卒・中途採用者にも研修を実施。また、全社員を対象にダイバーシティ意識調査を実施し、施策の効果測定や新たな企画の立案などに活かしています。

女性活躍推進に関しては、「2023年度末までの5年間で、管理者に占める女性比率を10%以上とする」「2023年度末までに、社員一人あたりの年間総労働時間を平均1,850時間以下とする」等の目標を設定。その実現に向け、より自律的で柔軟な働き方を可能にする制度を導入しています。

テレワーク制度、フレックスタイム制度、個人単位のシフト勤務制度や半日・時間単位での年次有給休暇の取得制度などを整備し、その活用を促進しているほか、時間外勤務自粛日の設定、連続休暇取得の推奨による年次有給休暇の取得促進など、労働時間の適正化にも努めています。ワーク・ライフ・マネジメントの水準向上は、働き方改革にもつながります。

一方、社員の自己啓発の支援や安全衛生の確保にも継続して取り組んでいます。社員の成長につながる社会貢献活動も、各地で行っています。

働き方改革、ワーク・ライフ・マネジメント支援の取り組み

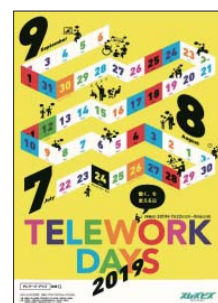
NTT都市開発では、2014年度より働き方改革に取り組んできました。

働き方改革に関するセミナー開催のほか、社員一人ひとりのワーク・ライフ・マネジメントの実現に向け、より柔軟な働き方を実現するための制度を導入しています。勤務時間に関しては、フレックスタイム制度、個人単位のシフト勤務制度や半日・時間単位での年次有給休暇の取得制度、勤務場所に関しては、テレワーク制度を導入するとともに、自社運営シェアオフィス「LIFORK」をサテライトオフィスとして活用。「テレワーク・デイズ」「スムーズBiz」にも参加し、これらの制度の活用促進に取り組んでいます。

また、時間外勤務自粛日（毎週水・金曜日、給与等支給日）の設定や、連続休暇取得の推奨により年次有給休暇の取得を促進するなど、労働時間の適正化にも努めています。2018年度の一般社員における月平均残業時間は22時間^{※1}、年次有給休暇の取得率は90%^{※2}です。

※1：2017年度実績、当社所定労働時間（7.5時間）に対する残業時間

※2：2017年度実績、「取得した有給休暇の日数」÷「付与された有給休暇の日数」



テレワーク・デイズ2019
ポスター



スムーズBizポスター

各種認定（くるみん認定、PRIDE指標ゴールド、健康経営優良法人2019（ホワイト500））の取得

NTT都市開発グループでは、多様な人材が活躍できる職場づくりに取り組み、「子育てサポート企業」として「くるみん認定」を受けているほか、各種認定を取得しています。

LGBT等性的マイノリティに関しては、「LGBTセミナー」や全社員研修を通して啓発活動を行うとともに、配偶者およびその家族に関わる福利厚生や休暇等の制度全般を同性パートナーにも適用しています。これらの取り組みが評価され、任意団体「work with Pride」が策定した職場における性的マイノリティへの取り組みの評価指標「PRIDE指標2019」においてNTT都市開発では3年連続、NTT都市開発ビルサービス（株）では初となる「ゴールド」を受賞しました。

また、NTT都市開発ではメンタルヘルス対策、ハラスメント対策などに加え、社員の自発的な健康保持、増進を会社が支援し、組織的な健康活動に取り組んでいます。産業医または保健師による面談指導のほか、メタボリック症候群該当者およびその予備群と判定された社員には受診の必要性の説明や医療機関の紹介を行うなど、生活習慣病を未然に防ぐための積極的な受診勧奨を行っています。こうした全体的な取り組みの結果、2019年2月、「健康経営優良法人2019（ホワイト500）」に認定されました。



■ 社内コミュニケーション

NTT都市開発では、社内コミュニケーションを重視し、風通しのよい企業風土の維持・強化に取り組んでいます。その一環として「ファミリーデー」を毎年開催し、社員家族を含めたコミュニケーションの促進を図っています。2019年度も「夏休みファミリーデー2019」を本社ビルにて開催し、135名の参加がありました。

2019年度は、NTTグループのラグビーやサッカーチーム、当社社員であるパラバドミントンの山崎悠麻選手、里見紗李奈選手の協力も得て、スポーツ教室を開催しました。参加者皆が、時間を忘れて体育館を走り回り、スポーツを通じて心をつなげました。社員の家族や仕事以外の顔を知ることは、社員同士のコミュニケーション活性化にも大いに寄与しています。

当社にはシンボルスports社員として、前述のパラバドミントンの山崎悠麻選手・里見紗李奈選手、トライアスロンの有園早優選手が在籍しています。

社内で「応援リーダー」を募り、社員が中心となってシンボルスports社員を応援しています。夢に向かって頑張っているアスリートの支援は、応援を通じた社員の一体感醸成にもつながっています。



「夏休みファミリーデー2019スポーツ教室」



パラバドミントン里見紗李奈選手(左)と
山崎悠麻選手(右)

健全な事業活動

高い倫理観と人権意識を持ち、責任ある事業活動を行うことは、NTT都市開発グループのCSRの根幹です。

NTT都市開発グループにおける企業倫理・コンプライアンスについては、ガイドライン等を定め、社内ホームページにおいて周知を実施しています。企業倫理推進委員会を設置し、企業倫理・コンプライアンスに対する方針や、万一違反があった場合の対応などについて審議しています。さらに、日常的に役員や組織長が、コンプライアンス違反や汚職が行われないように指導・監督するほか、社員の意識醸成を図るため、毎年、企業倫理・コンプライアンスに関する研修を実施するとともに、研修に関するアンケートを行い、理解の徹底を図っています。受付窓口である「企業倫理・コンプライアンス・ヘルプライン」の社内周知も継続して実施しています。また、情報セキュリティ委員会を設置し、情報セキュリティの確保に努めています。全社的な管理体制として、委員長である情報セキュリティ統括責任者のもと、各組織の長が当該組織の情報セキュリティ管理責任者となり、不正なアクセスや情報の紛失・改ざん・漏えいを防止するための物理面・システム面での対策、社員教育、委託先への監督などの対策を継続的に実施しています。

人権尊重については、NTTグループ人権憲章も踏まえ、あらゆる企業活動を通じて、世界人権宣言をはじめ国際的に認められた人権を尊重する企業態勢の確立に取り組んでいます。人権啓発推進委員会を中心とした社内体制を整備しているほか、eラーニングなどによる研修を行い、社員一人ひとりが、人権問題について正しい知識と理解を深めるよう努めています。